

偽アルドステロン症

① 偽アルドステロン症とは

- ① 血中アルドステロンが増加していないのにむくみ、高血圧、低K血症、手足脱力、筋肉痛などの症状を来すこと。
- まれには嘔気、嘔吐、意識が無くなる。
歩いたり立ったりできなくなる。
身体を動かすと息苦しくなる。
赤褐色の尿が出る。
尿がたくさん出たり、出にくくなったりする。
- 脱力、倦怠、こむらがえり
手足の力が抜ける
- ② アルドステロンは副腎皮質ホルモン（鉱質コルチコイド）で腎に働きかけ、水とNaを体に溜めて、Kを体外に出し体液を貯めこむみ、血圧を上げる作用がある。
- ③ 医薬品ではグリチルリチン酸として1日摂取量が200mgを超えないよう用量が定められている。
- ④ むくみ、心臓病、腎臓病、高血圧がある人、高齢者はリスク大。
- ⑤ 主な原因は甘草やグリチルリチン製剤（強力ネオミノファーゲンシー^注、グリチロン錠）で漢方薬の代表的な副作用である。
- ⑥ 芍薬甘草湯は、定期的には使用せずに頓服として痛くなった時に内服する。
1日3回以上は使わない。予防薬としては使用しない。（持続時間短いので）
効果発現まで5～6分。効果持続時間は4～6時間。